○４番（福永　啓君）　４番、福永啓です。一般質問をいたします。

現在、御船町中心部におきまして土地再生整備事業が進んでいます。主な事業といたしましては、御船幼稚園跡地に恐竜博物館、観光交流センター、子育てふれあい館と３つの施設を整備、国道443とシンボルロードが交差する三角地にふれあい公園を整備、また御船川左岸地区の旧酒蔵を利用した街なかギャラリーを整備する内容などとなっております。現在の計画で総額13億5,000万円、国の補助の割合は４割、残り６割、約８億円は町の負担となっています。また、先般町長も施政方針演説等で発言されましたが、年末に可決されました緊急経済対策によって若干変化があると聞いております。これら事業の一つひとつはそれ自体では決して採算をとることはできません。町はこれらの事業をとおし、町の活性化を図り投資規模を超える経済効果を図る必要性があると考えます。町は都市再生整備事業を計画するに当たり、何を根拠にどのように経済効果を試算したのか、また整備された施設を利用してどのような経済効果を生み出す施策を行う計画なのか質問いたします。

続きまして、御船町特に町中心部におきましては、現在観光というものが町の産業としてはほとんど成立していない状況にあります。しかし、町内は阿蘇外輪山の裾野に当たり、自然と日本の原風景があふれる七滝、上野、田代地区、町内中心部には昭和のかおりがする御船町左岸商店街や戦国の名将甲斐宗運の居城でもあった御船城跡などもあります。そして、何より歴史や文化に名を残した人々がここ御船の地で、そして御船の地から日本や

世界に羽ばたいていったという事実があります。これに恐竜という観光資源の核となり得るものをうまく融合させることができれば、観光産業においても決してほかの有名観光地に引けをとるものではありません。町は観光について、そして経済効果についてどのような計画を立てているのかお聞きいたします。

詳細につきましては、質問席より質問いたします。

**○町長（山本孝二君）**　質問にお答えします。

都市再生整備計画事業、旧まちづくり交付金に伴う町内経済振興策についてということで、まず恐竜博物館、街なかギャラリー開館に伴い、どのような施策で町内の経済波及効果を生み出すのかと、それから恐竜博物館、街なかギャラリー及び文化自然史跡等を観光振興にどのように生かしていくのかというご質問であります。

まず、都市計画については田端議員も最後で質問がありますので、そのときも詳しく答弁したいと思いますけれども、まず、都市再生整備計画事業の事業効果としましては、御船町の新たな顔となる「人集い夢かなう文化交流空間」の形成であります。まず１つが地域魅力の再生、２番目がにぎわいの再生、３番が住環境の向上、都市再生整備計画事業の導入はふるさとの再生と創造に向けた取り組みであり、シンボルロード線などの都市計画道路を生かし、御船町中心部の元気再生を事業効果として期待しております。また、地域の特性を踏まえ、まちづくりの目標を実施する各種事業を実現するために、町の自主性、裁量性を最大限発揮することにより、地域の創意工夫を生かした個性あふれるまちづくりを行うことが可能であると考えております。また、町が作成しました都市再生整備計画に基づき総合的、戦略的に事業を実施することにより、町中心部としての生活の利便性向上と集客性の向上が期待されると同時に、通常の事業、単一事業等では得ることのできない相乗効果、波及効果が得られることも期待しております。

まず考え方ですけれども、都市再生整備計画事業ということで、この事業については平成21年度、現在の自民党が民主党に代わる直前に申請した事業でありまして、先ほどありましたように13億5,000万円の事業費であります。また景気対策によって、まだまだ整備すべきであるところが、事業費の基準によってなかなかできなかった部分を今回補うということにしておりまして、今議会では上程をしておりません。ですから概略的にはお話しできますが、議会終了後に全員協議会で内容等については説明するとしておりますことを先に申しておきたいと思います。

まず、恐竜博物館、それから街なかギャラリー開館に伴いどのような施策で町内への経済波及効果を生み出すのかということであります。御船町の元気再生につきましては、恐竜博物館や街なかギャラリー等を活用しまして、町内外の人をできるだけ多く町内に誘引し、そしてその来館者が来街者となり町を回遊し町民と交流し、町にお金を落としていただくこと、これを念頭にして各施設の開館に向けて準備をしているところであります。まず、恐竜博物館、街なかギャラリーのオープニング企画ということで、来年の４月末にオープニングをするようにしておりまして、まずは目標をそこに立てて、そしてそのためにどういう企画を練って、そしてそれを実行していくのかということを頭に入れております。

ポイントだけ申し上げますと、まず１点が恐竜博物館の集客力アップであります。集客力を高め得る中核施設でありますので、いかに企画を充実させ、そして集客力を高めるかということが大事になってきます。これまでの実績から見ますと５月の連休、８月夏休みなどの土日、休日は比較的入館者がありますが、平日はそこまではないと、少ないと、商業活性化のためには極力平日の入館者を増やすことが大切であると感じます。そのため、九州各県の小中学校等に見学バスツアー等を働きかけるということを計画しております。次に、街なかギャラリーのオープニング企画と集客力アップということで他の施設のオープニング企画と合わせまして、街なかギャラリーのオープニングイベントを企画し、集客力を高めるべく町民、各種団体と協力して取り組んでいくと、そういう予定にしております。企画の意図は御船発学園都市構想、学園の町構想、御船の歴史、文化の発信と子どもたちへの伝達、その中で絵画の部門としましては富田至誠とその弟子たちの絵画展、これは南蔵はどうかなと考えています。それから歴史、御船の歴史、御船を開いた７人の方がいらっしゃいますけれども、その展示、母屋の活用、そして音楽としましては街中屋外ミュージック、シンボルロード歩行車天国、また城山等の活用、また御船中、御船高校生のロボコンの活躍によりましてロボコン全国制覇の軌道ということで考えております。

そのほかにもたくさんあるかと思いますけれども、たたき台を出しながら中身を今後早急に詰めていこうと考えています。オープンに向けてこれらの取り組みを町民及び各種団体と協議し、また協力し進めることで町民とともに育む街なかギャラリーを目指しております。ともにこれらの企画を継続して、そしてそれを発展させていく、そのような可能な体制も模索しております。

次に、来館者を来街者へ回遊性を高めるということで、来館していただいた方をいかに

他の施設に行っていただくかと、回遊性を高めるということで着地型の商品開発の企画と受入態勢づくりということで、中山間地域の体験ツアーとの連携等も考えております。それから次に、御船川右岸中心商店街の回遊性ということで、恐竜博物館入館者を商店街に誘引するのは地元商店街の自助努力が基本となりますので、そういうことも踏まえながら働きかけると。シンボルロード線を活用した各種イベントを地元に工夫していただく。恐竜博物館のイベント企画時には駐車場不足も考えられますので、無料駐車場付きの食事券等の発売等もできないかと。これはもうあくまでまだたたきでありますので皆さん方のお知恵をいただいて詰めていきたいと思います。それから３番目、御船川左岸本町通の町並み整備等ということで、これも来館者を来街者へと回遊性を高めるというところであります。街なかギャラリーのイベント企画で左岸の集客力を高めまして、本町通りの元気再生の契機としたいと考えております。回遊性を高めるためにまずは街なかギャラリー基本整備計画書に基づきまして、これを参考にしてできることからやっていこうと。それから、本町通りのコミュニティ道路整備の実施ということで、これもまた景気対策でしっかりお話をしたいと思いますけれども、左岸の開発ということで本町通りは非常に重要性がありますので、この事業を今回の景気対策で盛り込めないかということで今準備をしているところであります。そこにはもうご存じのとおり、いろんな歴史文化がありますので、それをいかに生かしていくのかということであります。それから経済振興策としまして、商業振興はあくまでも住民主体と民主体ということでありますので、民のやる気度をどこまで高めるのかということが課題になってくると思います。例えば、Ｂ級グルメランチバトル等を推進してみたらどうかと、それから空き店舗、空き家を活用した物品販売等の促進、あるいは各種イベントの開発時のテントによる簡易店舗等で行う。そういうものを考えております。あと、恐竜博物館、街なかギャラリー等の文化自然史跡等を観光振興にということですけれども、これは後でよろしいですか。今いいですか、はい。

ということですけれども、これについては観光交流センターの活動計画、運営計画策定業務の現在調査を行っておりまして、その現在検討中であります。この中でポイントとしては３つありまして、まず１つが観光交流の基本戦略としまして都市再生事業を契機に観光交流促進で御船町の諸問題、壁を乗り越え未来を開くというテーマで観光まちづくりの促進を考えております。例えば、地方都市は人口減少、少子高齢化でありますので、まちづくり課題を観光まちづくりで解決していこうと。それから２番目、御船町の強みを生か

し全国に発信する観光交流促進、恐竜、ロボコン、芸術・文化を核とした企画、情報発信を考えております。それから３番目、御船町にあるものを生かし、人を育み、心を豊かにする観光交流の促進ということで、これについても観光客のニーズ、意向対応のハッチ型ではなく、地元が見てもらいたいもの、触れてもらいたいものを商品企画し売り込み戦略、観光交流、そういうものを通じて観光まちづくりをやっていきたいと考えております。あと、各施設の集客力アップ、来館者を来外者へと、交流を通じて地域を元気にする、そのようなために物産等の販売も行っていくということにしておりまして、先ほど少し重なりますけれども、その中でのハッチ型の観光商品開発としまして、バスツアー、各種体験ツアー、地域資源のネットワークづくりと物語等々ということで、これはもう福永議員ご存じのとおり御船町は歴史・文化がかなり長けておりますというか、先人の方が頑張っておられますので、それを今後いかにこのまちづくり、観光面に生かしていくのかということで、観光交流センターが一つの大きなキーワードになると考えておりまして、今後早急に中身を詰めて、まずは来年４月オープンに向けて進めていくと。併せまして地元の方の意向をいかに取り組んで発信できるのかと考えています。

あとは自席に帰りまして答弁させていただきます。

**○４番（福永　啓君）**　まず、幾つか事務的な質問からいたします。恐竜博物館の開館予定日、先ほど４月末ぐらいとおっしゃいましたが、大体子育てふれあい館、観光交流センターも同じ４月末を予定されてるんでしょうか。

**○社会教育課長（宮崎　靖君）**　お答えいたします。

４月末、今のところ予定しておりますのは、たしか４月27日が土曜日だったと思いますけれども、そのときから考えております。この場合、恐竜博物館、観光交流センター、子育てふれあい館も含めましたものでいたしたいと考えております。

**○４番（福永　啓君）**　ふれあい公園の供用開始はどうなっていますか。

**○建設課長（松岡秀明君）**　お答えいたします。

ふれあい広場につきましても、４月27日を一応計画いたしております。

**○４番（福永　啓君）**　街なかギャラリーについてはいかがでしょうか。

**○経済振興課長（藤岡正視君）**　街なかギャラリーにおきましても、ほかの施設と一緒に４月27日に考えております。

**○４番（福永　啓君）**　それぞれの施設の設置条例、これが必要かと思いますが、それを議会

に上程されるのはいつぐらいを予定されていますか。

**○町長（山本孝二君）**　お答えします。

事前にするというのは当然ですけれども、いつかというのはまだ決めておりません。大体、12月ぐらいまでにはしたほうがいいのかなと思いますけれども、いずれにしても中身の詰めは早めにする必要がありますので、詰めた時点でまた議員の皆さん方にも事前にご意見をいただきたいと考えています。

**○４番（福永　啓君）**　設置条例だったら、今年いっぱいを目安ということで考えてよろしいですかね。その設置条例の上程とか議員説明の前には大体今ある程度のことをおっしゃっていただきましたが、もっと中身についてもこういうことをしたいというのが大体わかった時点ということで、議会に条例を提示していただくということになるのでしょうか。

**○町長（山本孝二君）**　今の質問のとおりで、まず基本的な中身を詰める必要がありますので中身の詰めをして、条例の具体的なことが出てきますので、それと今度はスケジュールの今中身を詰めておりますので、その辺でまた対応していきたいと思います。

**○４番（福永　啓君）**　先ほど答弁の中にもありましたが、緊急経済対策によってある程度今回その規模ですとか、ここに最初の計画案がございますよね。都市再生整備事業計画案、今現在私たちがいただいてるのはこういう形の計画案なんですが、これに対して若干の変更が生じると、その概要はどのようになっているのか説明いただきたいと思います。

**○町長（山本孝二君）**　ちょっと確認ですけれども、都市計画全体でしょうか。

**○４番（福永　啓君）**　はい、基本的に今日質問の通告の範囲内で恐竜博物館によっては大体こういうのを予定してると、子育てふれあい館に対してはこういうのを用意してると、ふれあい公園についてはこのようなものを用意している、街なかギャラリーについてはということ、個別のことで大体の概要で構いません。お答えください。

**○社会教育課長（宮崎　靖君）**　恐竜博物館、観光交流センターについてお答えいたします。

新しく建てます恐竜博物館新館、この中には一部観光交流センター部分を含みますけれども、延べ面積が約2,000平方メートル、そのうち常設展示室を約470平方メートル程度考えております。それから観光交流センター、旧幼稚園跡地の約半分を観光交流センターの既存施設として改修を予定しております。

**○経済振興課長（藤岡正視君）**　ギャラリーについてお答えいたします。

まずギャラリーにつきましては、南倉については修復が大体終わっております。あとこ

れからの予定ということで、北倉を郷土資料館しての活用を考えております。それから母屋につきましては、母屋はただ今解体を主な工事としてやっておりますので、ある程度展示企画とか事務所とか物品の販売とか、そういう活用ができるように今後修復を考えているところです。

**○建設課長（松岡秀明君）**　ふれあい広場の計画についてお答えします。

現段階においてはまだ詳しいことは申し上げる状況にはなっておりませんけれども、ふれあい広場におきましては、当初計画の中に含まれてなかった部分、例えば健康遊具、そういった遊具、あるいは幼児から小学生ぐらいまでを対象とした遊具の整備、そういったものを主な事業として今計画を練っておる段階です。

**○４番（福永　啓君）**　わかりました。ちょっと今の中で気になったのが、恐竜博物館、メイン展示施設が470平方メートルとおっしゃいましたが、私たちが最初にいただいたこの基本構想では一応500平方メートルがメインとなって、200が企画展示となって700ぐらいと、全部展示するスペースが。今回470というと30平方メートル減ったということになりますけど、それはどういうことになりますか。

**○社会教育課長（宮崎　靖君）**　当初計画しておりましたものは、先ほど申しました500平方メートル程度という形で進めておりまして、これは基本設計、実施設計の段階において、そこの土地の形状それから利用状況を勘案したところで、常設展示場が約470平方メートル程度になったということであります。

**○４番（福永　啓君）**　企画展示室を含めてどの程度になりましたか。純粋に展示できるスペースというのは。

**○社会教育課長（宮崎　靖君）**　今申しましたのは常設展示場で、新しく建てます建物の中に交流ギャラリー、これが予算上は観光交流センター部分に反映しております。面積が約400平方メートルあります。

**○４番（福永　啓君）**　この最初にいただいたのでは、500が常設、200が企画という展示室、恐竜博物館が独自に使えるスペースが全部で700ぐらいとなっておりました。今回新たな予算が付いて内部の整備が進むのではないかなと期待していたんですが、その常設展示室、企画展示室、これは広さが広くなるんですか。それともこの計画から変わらない。それともこの計画から変わった。そのあたりをちょっと教えていただいてよろしいですか。

**○社会教育課長（宮崎　靖君）**　今の質問確認ですけれども、当初の基本構想、基本計画の段

階からどう変わったという形の説明でよろしいんでしょうか。

**○４番（福永　啓君）**　展示のスペースが一番知りたいんですね。展示のスペース、これは絶対的スペースですので、何かやろうとしてもそれではできませんというハード的制約が生まれてくるものですから、企画展示室、常設展示室、博物館が展示として使えるスペースの平米数を教えてください。

**○社会教育課長（宮崎　靖君）**　今申しました470平方メートルと申しますのは、常設展示のスペースであります。そのほかにこれは２階建てですので、２階部分に一部展示も設けてあります。その面積には入っておりません。470平方メートルと申しますのは、吹き抜けという２階につきます吹き抜け部分の面積が470平方メートルということでありまして、またその隣の横にちょうど今の分室前の駐車場あたりにできます交流ギャラリー部分で約400平方メートル、これは恐竜博物館のいろんなイベント、また観光交流センターのイベントにも両方に使えるような自由空間といいますか、そういうスペースを今設計で考えております。

**○４番（福永　啓君）**　設計に関してはちょっとここで議論してるとよくわかりませんので、後も設計図はたしか基本設計、本設計ともできていると思います。早急にその平面図と立体図だけでもいいので、議会に提示していただきたいと思います。

**○社会教育課長（宮崎　靖君）**　先ほど町長が申しましたとおり、これは緊急経済対策も含めまして全員協議会の場で詳しく説明したいと考えております。

**○４番（福永　啓君）**　わかりました。そしたら質問を続けます。ふれあい公園、観光交流センター、恐竜博物館、街なかギャラリー、この４つは、子育てふれあい館の場合はこれは目的が違いますので、また一緒くたにすることはできないかと思うんですが、ふれあい公園、観光交流センター、恐竜博物館、街なかギャラリー、これとそれぞれ計画時点で町に与える経済効果、何を根拠にどのように試算したのかというのをお答えください。

**○建設課長（松岡秀明君）**　お答えいたします。

このもともと当初平成21年度になりますか、計画をした段階での状況ですけれども、先ほどの町長からの答弁と重なる部分がありますけれども、中心市街地の活性化、そして特に恐竜を目玉とするまちづくりということで経済効果を期待するというものですけれども、町が作成しましたこの都市再生整備計画事業に基づきまして、総合的かつ戦略的に事業を展開するということで、そのことによる相乗効果あるは波及効果を得られることを想定を

しておるということです。この事業の費用対効果と申しますのは、その当時算定をした根拠としましては、国から示される費用対効果の手法によりまして、個別の事業単位、一つ一つの事業単位ごとの費用便益分析といいますか、それを根拠としまして算出したところです。そういう中でその分析結果としましては、まずふれあい広場が3.04、これが費用対効果といいまして、結局投資をすることによって得られる事業効果を、費用に見合う事業効果が得られるかどうかという一つの判断をするための数値ということです。この今申し上げました数値が1.0以上の数値であれば、費用に見合う、事業費に見合う効果が得られるというのが一つの根拠というか、考え方になるということです。それが国から示された基準になっておるということです。それから観光交流センターが1.0です。それから子育てふれあい館が1.0、それから街なかギャラリーが1.0、それから恐竜博物館が1.0ということで、その当時算定された費用対効果の数値ということになっております。結論としましては、先ほどもちょっと申し上げましたけれども、この費用便益というのが1.0を上回れば費用に見合う事業効果があるということで判断できると解しているところであります。

**○４番（福永　啓君）**　ふれあい公園、これが費用対効果3.04と、結構高い数字が出てますね。結局これを言ってしまえば、仮に６億円にした場合、３×６、18億円ぐらいの経済効果があるという計算になるんでしょうか。

**○建設課長（松岡秀明君）**　お答えします。

この考え方としてはその事業に見合うということですから、そういった考え方になろうかと思います。

**○４番（福永　啓君）**　ちょっとこれは別にお聞きします。ふれあい公園の利用者予想及びその根拠をお知らせください。

**○建設課長（松岡秀明君）**　お答えいたします。

ふれあい公園の利用者の予想については、まだ今現段階では予想としては算定をしておりません。ただ、今手元に資料がないという状況だと思います。

**○４番（福永　啓君）**　観光交流センターの利用者予想及びその根拠をお伝えください。

**○社会教育課長（宮崎　靖君）**　それについては算定しておりません。

**○４番（福永　啓君）**　恐竜博物館の利用者予想、あとは街なかギャラリーの利用者予想の根拠、それも何になっていますか。

**○社会教育課長（宮崎　靖君）**　恐竜博物館につきましては、４万人を利用者数の目標数値と

して上げておりますので。

**○経済振興課長（藤岡正視君）**　ギャラリーにつきましては、あくまでも目標ということで年１万人ということで計算しております。

**○４番（福永　啓君）**　ちょっと私は今大変驚いているところでもあるんですが、やはり観光交流センターですとか恐竜博物館、街なかギャラリー、このあたりは将来観光の核となるべきものです。それに関して整備する前の計画する前の段階でこれだけの人を呼ばなければならない、呼びたいねと、そのためにはこうしたいというのがないと計画自体が難しいかなと思ってるところなんです。その観光交流センター及び恐竜博物館、街なかギャラリーも予想ではなくて根拠、こうなるからこれぐらい来るであろうという計算式の上で出された数字がないということは、計画が本来だったらそれでどうやって計画するんだと思ってしまったんですけど今は。そのあたりは、そういう最初の一番聞きたかったとこなんです。この計画をするにあたり、どのように経済根拠を試算したのかと、何でも大抵こういう事業をする場合は建物を建てます。幾らかかります。そこに人が集まります。それはなぜかというと、ほかのところではこうやって集めて、こうやって集めて、だから御船もこれぐらい集まるでしょう。そしたらその人たちが町にこれだけお金を落とします。そしてこれだけの経済効果が生まれます。だからこれは十分この町としてその施設ではペイはできないけどやっていけますという根拠のもとに建てるものなんです。それの試算は必ずやられていると思うんですが、そこのところをお聞きしたんですけど。そこのところはやられてないということなんですか。

**○町長（山本孝二君）**　お答えします。

経済波及効果等、これにつきましては１次効果、２次効果という計算式があるかと思います。今度のくまモン効果もありますけれども、御船町のこの都市再生整備事業の申請する時点では、具体的にどこまでという計算はしておりません。

**○４番（福永　啓君）**　そこの計算が、本来であればその計算をして、そしてそのためにはどのような施策を実行するか、そして実際に開館して、そしてそれを継続させるためにはどのような施策を実行するか、順序があると思うんですね。その順序が今聞いたところによると、最初に事業を作ってしまって、その後にそれは考えていこうと、これ全く方法が逆だと私は強く感じました。例えば、じゃあちょっと個別にお聞きします。ふれあい公園、これに対して公園といえば人々の憩いの場ではあります。しかし一方でこれだけの投資を

するわけですから、何らかの経済的波及効果が町に必要ではないかなと思うんですが、どのような施策とかを考えられておりますか、現在。

**○建設課長（松岡秀明君）**　お答えいたします。

まず、公園については当初の計画でも説明をしたかと思いますけれども、憩いの場、それから地域の特徴を生かすというか、そういった公園。そして多目的に活用できる公園ということで整備を進めるわけですけれども、まず公園を利用していただく、国道とそれからシンボルロードに挟まれた中にあるわけですけれども、そして公園を活用していただくことも併せてですが、恐竜博物館、それからそういった観光交流センターですか、そういった施設も併せて活用されると思います。そして旧の本町通りに計画されております街なかギャラリー、そういった施設への誘導というか、そういうところも大きな役目であると考えております。一応そういったところで動線的な誘導を図る一つの手段ということも大きな目的であるということで今事業を進めているところです。

**○４番（福永　啓君）**　そういう総論ではなくて、公園に例えばそれをするために、例えば案内所を置くとか、もしくはそこにいろいろ議員の方からも非常に要望が多かったと思うんですが、物品販売所を将来設置する計画があるですとか、整地できるようにしておくとか、トイレと何かそういうそこにバスを乗り入れて公共交通機関のハブとするとか、そういう具体的な施策はもう１年前なんですよね。だからそれまでにある程度考えておかなければならないと思いますが、そういうことについてお聞きしたんですが。今現在考えてらっしゃることをお答えください。

**○建設課長（松岡秀明君）**　お答えいたします。

今、ご意見をいただきましたように当然ふれあい広場においては、そういった公園的な機能を整備するというのはもう基本的なところです。大きく２つのブロックに分けるようになっておりますが北ブロック、南ブロックということで、北ブロックから言いますと遊具の広場、それから健康広場、先ほど健康遊具の整備とかそういうのを申し上げましたけれども、それから親水広場、噴水とかそういうものも計画をしておるところです。それから当然駐車場の整備もあります。それからジョギング、そういったジョギングのための道といいますか通路といいますか、そういうものも整備をいたします。それから水路を中央に今実際整備をしておりますけれども、そういうものも計画しております。それから南ブロックにおいては多目的広場ということで、さまざまなイベントができる広場、それから

イベント広場です。それには芝生を配したいと思いますし、東屋、それから管理用具の倉庫あたりも計画しております。それからこちらにも同じくジョギングのための通路というのも計画しております。そういったもの、それから駐車場、トイレあたりはもう当然２カ所に準備をしたいと考えております。大体そういったところを計画しております。

**○４番（福永　啓君）**　現状はわかりました。将来的にはどのような構想をお持ちでしょうか。

**○建設課長（松岡秀明君）**　お答えいたします。

将来的には先ほども申し上げましたように、当然こういった公園を整備することで、まずは利用していただくというのが大前提であると思います。そしてその公園を利用していただくことで、それぞれの町民の皆さん方はじめ、来町者の外から来られる方も含めてですけれども、健康増進に役立てていただきたい。併せて先ほど申し上げましたように、その公園を利用していただくことで、まず入り口、御船町中心街への入り口、そういったところでのとらえ方もしております。そして町中心街を中心とした地域の経済的な活性化というか、そういうものにもつなぎ得る効果を期待しているというところです。

**○４番（福永　啓君）**　具体的に物産館とかそれに類するもの、もしくは観光交流センター、そういうものをここに将来的に建築することは構想の中にありますか。またそれは可能ですか。

**○建設課長（松岡秀明君）**　お答えいたします。

当初、計画を立ち上げる段階ではそういう構想もありましたけれども、現段階では具体的にはそういったことは計画をいたしておりません。将来的にそのことについては公園をオープンして、その状況を見ながらそこについては判断をしていきたいと考えております。

**○４番（福永　啓君）**　そういうふうに将来的にある程度広い視野を持った計画がこの場所的には必要だと思います。将来的にじゃあここを変えていったほうがいいんじゃないか、ここの場所自体がもしかすると周りが全部商業地になるかもしれない、もしくは商業地にならないかもしれない、わかりませんからですね。しかし問題はこの公園について若干法律的問題が生じてくると思うんですが、例えばこの公園の地域、大体1.4ヘクタールになります。これを公園として整備する場合は建てられる建物が法的に制限されてます、都市公園の場合が２％、今現在この計画段階で建築基準法でいう建物の建築面積は何平方メートルぐらいになっていますか。

**○建設課長（松岡秀明君）**　お答えいたします。

このふれあい広場に建築可能な建物の面積としては、この計算式から算出したところ276平方メートルぐらいが建設可能な面積ということです。

**○４番（福永　啓君）**　90坪ぐらいですか、90何坪とか80何坪とかその程度になりますよね。その中に既にトイレとか、東屋ですとか物品倉庫ですとか、そういうものが建設予定されております。それでもう半分ぐらい使っちゃうと思うんです。としますと、もう法律上はここに建物を将来的にわたって建てることができなくなるということになると思いますが、いかがでしょうか。

**○建設課長（松岡秀明君）**　お答えいたします。

今、ご指摘をいただきましたとおり、既に建設予定をしております建築物を建てることによって、ほぼ今後においてそういった建物の建築可能面積というのはなくなることが予想されます。

**○４番（福永　啓君）**　だからそういうことなんですね。じゃあ今後に皆さんの要望があってここには道の駅を置きましょうと、置く置かんかはわからん、何か物品の販売所をつくりましょうとなったときに、もうこのまま整備を進めていくとそこで法的制限が大きくかかるわけです。それを破るためにはそこを御船町がまた買い取るとか、そこに対する用地代をずっと国の補助金の割合にあたって永世的に払い続けるとか、新たな負担が生じるんですね。その面積以上のものを造ろうとすると。だからそういうのを一番最初に将来的にはここはどうなるかわからないんです。いろんな意見があります。議員さんの方々の中にも「将来は道の駅ば造らんといかんね」とか言う方もいらっしゃるでしょう。「物産館を造らんといかんね」と言いなはる方もおんなはっでしょう。でも今現状ではそれを造るためには新たな負担が必要か、もしくは法律の壁があるから、すごい大きな壁ができてしまうんです。それを私がこの通告の中にもありましたけど、事前と申しましたのはそういう何十年後、40年後を見越してできるだけ御船町がフリーハンドで一つ一つ行えるような計画が必要であったということなんです。これはもう仕方がないです。そうなってしまった以上。じゃあこれからどうするかという話に後は移らせていただきたいと思います。

**○町長（山本孝二君）**　お答えします。

都市再生整備事業、これはもう当然国交省の認可を得てやっております。また、道の駅的なものは当初から造るならという話も当然あっておりました。私としても造ったがいいんじゃないかという思いもありましたけれども、いろんなルールの中でやはりこの道の駅

を造るにはまた別予算で造る必要があると、最近では施設整備費にお金をかけてその分がなかなかペイしないという実態もあって、できるだけお金をかけずにしようじゃないかと。今、まちづくりでいろいろ活発にやってるところはお金をかけずにやってるところがたくさんあります。この前都市計画審議会の研修で佐賀県の旧三瀬村ですね、行ってきましたけれども、もうある意味じゃ木造ですね、掘っ立てで造ってあるんです。当初は、それがどんどん展開して今峠で道までよくなってきているという状況もあります。私としては今の現状ではこの計画をまず実行に移して仕上げる。その中で先ほどからあってますように、ソフト面についてはまだまだ足りない部分がありますけれども、そういうものを来年のオープニングに向けてきちんとやりながら進めていこうと。よく言われるのが、計画というのは立ててそれを実行に移して、そして状況を見ながらやっていくというのも一つの方法なんですよ。１つですね、福永議員も先ほどから経済波及効果のことも言われています。当然それは考えます。しかし行政というのは、今までこちらの上益城郡のほうに熊本市から人が来るというのが少なかったんですよ。ほとんど熊本市から東の方向、合志市、菊陽、大津、やっと嘉島のクレアで嘉島町のほうに人が寄ってきていると、それを御船町に引き寄せるためにはどうするのかという視点で都市計画の当初の計画を作るときからそういう思いはありました。その中でこの都市再生整備事業をもし申請してしなければ、ただの道路ができたとそれだけの町になってしまうわけです。つまりシンボルロードは当初から計画してましたので左岸までは通じる一つの幹線になりますけれども、それだけで終わってしまうと。私はあのときにこの都市再生整備事業を申請してよかったなと思っています。少し話がずれてるかもしれませんけど、ちょっと言わせてください。もともと行政というのは住民のためにするわけです。当初嶋田町長時代にカルチャーセンターとスポーツセンターを造るときに議会でもかなり言われておられましたよ。しかし、それはそのときやり遂げて人を引きつける環境を作られたわけです。それは一例です。ですからあと財政の起債制限比率とか財政力とかいうものを見ながらやっていきますけれども、その中で無理しない線でどこまでやるのかということを念頭にこのまちづくり計画をしてます。ですから、今後は行政に頼るだけじゃなく町民の皆さんの意見をいかに吸収して皆さんが民が主体となってやっていくような環境を今から作り上げなければできないと思っています。ですから数字の上では福永議員が言われたようにそれは経済波及効果の計算をすれば、民間に頼んでする、できるんですよ、それはやってないと。しかし、そういう思いでやってますの

で、その辺のところを文化面には強い福永議員が、ぜひそういう提案をしていただいてこれから生かしていこうと。それは原点ですので、細かいことをずっと質問しても一緒なんですよ、一緒です。

**○４番（福永　啓君）**　じゃあ次に、恐竜博物館についてお聞きいたします。

恐竜博物館なんですが、これの入場者数の試算、このあいだ10万人という数字も教育長が個人的にされましたよね。今回は４万人というのが目標であると。なぜ４万人、10万人、そのあたりはどのように思ってらっしゃいますか。

**○社会教育課長（宮崎　靖君）**　先ほど４万人と申しましたのは、従前地というか調査する時点の数値が３万1,454人という、その数値から年々横ばいか少し減少傾向にありました。これはなぜかと申しますと、恐竜博物館事業はやってるんですけれども、施設も古いですし飽きられているんじゃないだろうかなということもありましてそうした数値になっていると思いますけれども、この４万人というのはこれは事業効果について検証をしなければなりません。低い数値にはなっておりますけれども、最低限クリアしなければならない数値ということで４万人の設定をしているものであります。また、10万人という数値があります。これは福永議員ともちょっとお話したんですけど、これは20万人になるかもしれませんという希望的観測もあります。10万人というのはあくまでもこれだけの事業規模、お金を町の税金を一部打ち込みますので、そうした10万人を呼ぶ施策について社会教育課としては頑張っていきたいと考えている数値ということでご理解いただきたいと思います。

**○教育長（増永信介君）**　お答えします。

４万人という数値は今課長からありましたように、計画の段階で４万人を目標とするということです。10万人という数字が出ておりますが、これは私の志の目標です。４万人の博物館でなくて、やはり10万人ぐらいが呼べる魅力ある博物館を造らなければ、今議論にもあってますように御船町の経済にもつながらないとも考えております。経済波及効果ということで福永議員が質問されておりますが、いろんな経済波及効果の算出の計算はあると思いますが、直接経費、間接も第１次、第２次いろいろあるようですが、私が個人的に直接的な部分で考えて計算をしやすいということで、10万人ということを考えますと、例えば入館料が500円、それから交通費、交通費が例えばバスで500円、またガソリン代等含めると単純に1,000円、そこでかかって10万人で1,000円ならば１億円、それにお昼ご飯を500円で食べる、またはおみやげを500円買うということになれば、そこでまた1,000円で10

万人だと１億円、単純にこれがきちんとした計算式かどうかはわかりませんが、それくらいぐらい町として魅力のある博物館が造れたらいいなという私自身の志の目標です。また課長が言いましたようにそれだけ町の税金も投資しますので、それくらいぐらい気合いを入れて魅力のある博物館を造りたいと思っています。

○４番（福永　啓君）　４万人という数字はわかりました。それが波及効果を計算して国に出さんといかんけんですね、それだけ一応４万人ぐらいにしとうこうと。でも本来だったら５万人ここに入ったこともあるわけですから、少なくとも最低数字でも４万人というのはあまりにも低すぎると思います。現状でも５万人入ったことがありますでしょう、恐竜博物館は。過去に。５万人ないですか、５万人弱ですよね。５万人弱までは入ったことがあるんですよ。新館を建設してもうせめて数字上でも実数でもそのあたりは出しておかないとこれはいけないと思います。そこを目標にしておかないと。そして第２点、10万人、私は10万人は非常に少ないと思っています。御船町のこの恐竜博物館の資源だけでも最低20万人ぐらいは呼べる能力が私は十分あると思っています。これはただ言っているわけではありません。まず、先日恐竜博物館の恐竜博物館展が市内で行われましたよね、あの行われた期間は２カ月間です。そして展示されたスペース、恐竜博物館が行われたスペースは700平米なんです。今回御船町が計画している恐竜博物館の展示室、企画室を足せば同じ規模のものができ得る範囲の規模なんです、スペース的には。それで２カ月間、どれだけ入場者数があったかと申しますと、13万7,000人です、２カ月間で。調べられたと思いますけど、私も調べました。13万7,000人、60日間で入場者があっております。ですから今年は熊本市の博物館は20何万人を超えます。このようにある程度きちっとしていけば、20万人というものは恐竜だけでも私は呼べる数字ではないかと思っております。その際、ちょっと教育長も言われましたけど、そこで今の現状だったら恐竜で20万人呼んでも30万人仮に呼んでも、呼びました、バスで行きました、そして見てから帰りました。これでは町に対する経済波及効果というのは非常に少ないんです。そこで町長も最初におっしゃいましたとおり、町をその20万人の人が回遊してもらわにゃいかんわけです。行って歩いてからお金をそこで使ってもらわないといけない。それが新たな観光産業の創出ということになるわけです。これの経済波及効果はどれぐらいあるかというのを申し上げますと、仮に20万人の人が新たにこの都市再生整備事業において御船町に来たとしましょう。その人たちが県平均の観光客と同じだけのお金を町に使いました。3,400円です。２×３が６億円。20万人

で６億何千万円ぐらいの今までになかった新たな産業がこの中心部に生まれるということなんです、20万人をちゃんと回遊させれば。これは非常にすごい経済効果を生み出す、そうすればこれに今町内の方の中には「恐竜博物館にあぎゃん金使わんちゃよかたい」という方もいらっしゃいますでしょう。しかしこうやって実際に数字として町の中にお金が落ちる仕組みができてくれば、「いやもうちょっと何か、土地を買って、じゃあ道の駅も造ろうか」とかいろんな話が出てくるのではないかと思います。ここが今まで言ったことの一番ポイントなんです。今からしなければいけないのはここの御船町で集めた人にお金を使ってもらう施策というのが一番重要だと思うんです。先ほど町長の話の中にもありましたけど、そこのところが全く見えてこなかった。バスで呼ぶとか話がありましたのはバスツアーで呼ぶとか、オープニングイベントをやるとか、オープニングイベントも大事ですよ。ただオープニングイベントをやってお客を呼んだ事態で、「あ、ここはおもしろいじゃん」と「こやんして歩いて行くとここにもおもしろか店があるね、あそこもおもしろか店があるね」という仕組みをちゃんと作った後でなければ、１回呼んでしまって「何ね、ここと あすことあすこしかなかたい、なら車であすこに行ってから帰るたい、車にあすこに行ってから帰ろたい」てなってしまったら、この町にお金が落ちませんから、そこばせにゃいかんということなんです。そうするために一番重要なところがやはり現在町中にない観光という産業の創出が必要だと思います。今現在御船町の観光客数なんですが、統計上何人になってますか。

**○経済振興課長（藤岡正視君）**　お答えいたします。

23年度でいいでしょうか。日帰りと宿泊合わせまして16万5,723人です。

**○４番（福永　啓君）**　１人当たり幾ら使ってる計算になってますか。またこの観光統計を見てどのように分析されてるのか所見をお伺いしたいと思います。

**○経済振興課長（藤岡正視君）**　この観光統計そのものが熊本県の観光統計の調査によるものでありまして、１人当たりの消費といいますと宿泊、日帰り一緒でいいんですかね。宿泊、日帰り合わせまして、１人当たり5,626円です。

**○４番（福永　啓君）**　16万人ぐらいの観光客、宿泊がたしか7,000人ぐらい入っとるですよね。統計上は、23年度だと。16万ぐらいの観光客がおって5,600円使いよると、何かやはり一般の町民の方々には、そんなに観光客がいて7,000人も御船町の宿泊施設のなかてから泊まりよらして、どぎゃんだろかと思う方がいらっしゃると思うんです。この観光統計はどのよ

うに計算して、それをどのように分析しているのかをちょっとよろしいですか。

**○経済振興課長（藤岡正視君）**　これにつきましては、大もとは御船町にあります宿泊施設、それからそれぞれゴルフ場、華ほたる、恐竜博物館、吉無田高原等に四半期ごとに、それぞれ入り込み客数あたりを報告していただいております。それで最終的に日帰り、それから宿泊の入り込み客、それから１人当たりの消費額ということをそれぞれ施設から報告をいただいている状況です。

**○４番（福永　啓君）**　統計上、観光地点等決めて、そこからそういうふうにしなきゃいけない。これは観光庁の統計に沿ってやってらっしゃると思うんですが、その観光地点というのがやはり抜けてるところが非常に私は多いと思うんです。今現在やってらっしゃるところが多分さっきおっしゃった華ほたるですとか、ゴルフ場ですとか、あとイベントとしてはがあーっぱ祭りとかは入ってますよね。入ってない、があーっぱ祭りは統計は入ってないですか。まず、観光を語るときに実際御船町の現状はどうなのかというのを実測数できちっと把握しておくことが必要だと思うんです。まずこうであってそれを改善するためにはどうなのか、そのまず現状自体が本当にきちっと町が認識してるのかというとこういうちょっと実質とは離れたような数字になってきていると思うんです。じゃあ町は、観光資源はどのようなものがあると考えていらっしゃいますか、御船町にとって。

**○経済振興課長（藤岡正視君）**　まず観光資源といいますと、町が持っております緑の村、それから吉無田の水源、城山、それから観光係が管理しておりますそれぞれの公園、それから地域にあります何ていいますかね、善之丞とか樫永峠とか、いろんな各施設がそれぞれ地域にありますので、そういうのを今後、今御船町が観光交流センターに絡みますいろんな運用、活用について委託しておりますので、その中で中山間地あたりの観光施設を含めたところで今後の活用あたりを計画しております。

**○町長（山本孝二君）**　観光資源はたくさんあります。有形のものは今藤岡課長が言われたようなところで御船町史にもたくさん書いてありますので、もう１つは無形の文化財というのも非常に大事かなと思っています。やっぱりこう先人の英知というか、来年が宮部鼎蔵先生の没後150年祭もありますし、山口県の萩ともつながっておりますし、宇土の坂本竜馬の会とも今中身を詰めて来年の没後150年のプレイベントにやろうかということでもうしてますし、今度の３月17日、日曜日、日向往還のウォークラリーですね。鼎春園から通潤橋まで、これは私も参加するようにしております。職員も10名参加するということで、特

に御船町は単独もありますけれども、近隣の甲佐、美里、山都、それから五ヶ瀬、日之影を通って延岡ということでちょうど九州のど真ん中に縦軸の九州縦貫と横断の合流点にもなりますし、非常にこれから先、やり方次第でどんどん変わっていくと思っていますので、これからが観光面での力の発揮どころということですので、ぜひそういう意見を取りまとめてまずは実行しようと。最近思いますのはやはり参加が少ないんです。理想を掲げても理想を掲げてやらないならもう意味がないということで、ぜひ参加型にしていく。参加することによって町民の方のいろんな感想なり意見をいただいてそれを次に展開していくと、これはよく言われる一点突破ですけれども、御船町がなぜ今まで進んできたけれどもいまいちというのはその行動力が私はなかったかなと少なかったかなと思います。ですから、そういう文化財も生かしながら展開するということで思っていますので、ぜひそういう観光面を今後どうしていくのかと、一つはその拠点が観光交流センターであると思っております。

**○４番（福永　啓君）**　町の方々の意欲というのは低くはないと思います。本来は町の方のそういう観光地の思い入れは強い、それを町がきちっと後押しするような形になっていない。町がこうやってこれをします、あれをしますと決めてどっちかというと上からという形になっているので参加者も少ないんじゃないかなと私は感じております。

あとは観光振興計画の現状なんですが、それぞれの観光振興計画の現状はどのようになっていますか。

**○経済振興課長（藤岡正視君）**　観光振興計画の現状ということで、まず御船町におきましては、観光振興計画ということは先ほど言いましたように観光交流センターの運営及び活動計画ということをやっておりますので、この中でいろんな御船町にある観光施設、それから文化財的な施設、そういうものを、この計画が６月末ということに一応完成予定をしておりますので、この中で具体的に示していくことができるということを考えております。

**○４番（福永　啓君）**　今年度の予算に観光振興計画の作成料は付いていましたよね。それが今製作中であるということですね。大体どれぐらいできているんですか。

**○経済振興課長（藤岡正視君）**　どれぐらいというか何％ということまで把握をしておりませんけれども、もともと11月に発注いたしまして２月末で一応工期を取っておりましたけれども、期間がちょっと足りないということで６月末まで延期した次第です。

**○町長（山本孝二君）**　平成24年度御船地区土地再生整備計画、その中で観光交流センター運

用及び活動計画策定業務委託ということで、今質問がありましたように発注をして進めております。先日、中間報告的に意見交換をしまして先ほど私が最初に答弁した内容が主な内容になっています。それをもう少しきちんと最後の詰めをやっていくのにもう少し時間がかかるということですので、併せて今回委託しているのは報告書を作ることだけが目的ではなく、作りながら実際今観光協会並びに町民の方とも中身を詰めておりますので、やりながら詰めているということで、基本的にはもう７割、８割きていると感じています。

○４番（福永　啓君）　この観光に対するまず認識が、先ほど町長がおっしゃった中で幾つかやはり外れていると、それに含まれてないということが幾つかあると思います。例えば棚田とか、これは棚田類です。棚田とか、これは外国から見れば本当にそれだけでここに泊まりたくなるようなところであるんです。アジアの国々では世界の一流チェーンホテルがわざわざ庭の中に棚田を造ってリゾート地を開発してるところが幾つもあります。そしてそこに高いお金を出して泊まる西洋人の方がいっぱいいらっしゃいます。そういう観点、造った棚田よりこちらの棚田がすばらしいんです、もっとね。そういう活用というのがまだされてないかなという部分がありますし、あとは例えばそのあたりで今城とか小坂の地区です。あれですね、都会の人が来ると「何、この町は」と言いなはっとですよ。おもしろいと、城塞都市みたいと、固まって、町をこう歩いていくと。私たちはいつもいるから何気なく見ている、西岸も同じような形なんです。そういうふうに御船町の人たちが何気なく見ている中にもたくさんさっき町長がおっしゃった以外にも観光地が眠っています。人も眠っております。これを私は本当にやろうと思えば御船町は観光ですごいさっき言った20万人、30万人というのは呼べる底力があると思っています。何かそれを信じてらっしゃらない方も多いかもしれませんけど、実際豊後高田、あそこ40万人呼んでますでしょう。豊後高田に行きましたけど、みんなおっしゃるのは「あれ左岸だよ」と、「御船町左岸、あそこじゃん」と。そこだけで40万人呼んどらすわけです、年間。そういうキャパシティは御船はちゃんと持っているわけですよ。それを開発してやっていけるかどうか。それによってさっき言った６億円は、40万人呼べば幾らですか。4,000円として、四四、十六、16億円です。というのが何にもないところに産業として創出できる可能性があるということなんです。じゃあ今からその産業を創出するときに誰がそこの事務局をコーディネーターするんですかという話に次はなってこなきゃいけないんです、本当は。今どうお考えですか。それは町ができる作業ではないと思います、中心活性化では。じゃあどこがそういう

コーディネーターの作業をしなきゃいけないんですか。

**○町長（山本孝二君）**　お答えします。

まず４月に観光交流推進課を作って内部の体制を整えます。これはもう以前からいろんな議員が質問をされる中で、まずは町がやって、それから民間に移すならということで民間もいろいろあります。そこの企画力並びに行動力並びに今福永議員がおっしゃったような、そういう視点の持ち主がおられればもうそれがいいと。ですから、まずは行政がしようということを思っています。今、スポーツセンターの指定管理者も準備してますし、先般は老人ホーム、その前は七滝中、小学校のバスの問題、すべてプロポーザルでやっています。民間にはいろんな能力を持った方がおられますので、ぜひプロポーザルでどういう展開をするのかと、今福永議員がおっしゃったようなことも含めて、うちはこういうふうにやるぞというところがあれば、そこに任せたがいいんじゃないかなと思っています。しかしそれまでは行政主導で態勢を整えて、ある時期まではお膳立てをして進めるというのが一番理想かなと思っています。

**○４番（福永　啓君）**　私は業者ではなくて町民が主体となってやるべきだと思っているんです。そのじゃあ町民が主体となってやるべき受け皿というものは、実際例えば観光協会とかいうのがございますよね。今事務局も庁内に置いてあって、専属の事務員というのはほぼいないような状態で、実質そういうコーディネーター作業ですとか、プロデュース作業ですとか、もしくは事務局的作業というのは非常にできていないところがあるんですが、あれは町民みんな入れるんですよね、観光協会っていうのは。ここに入ってらっしゃる方もみんないらっしゃいます。だから観光協会自体は誰がやっとるとかいう世界ではないんですよ、本来は。みんなで町民の人たちが参加できる世界。だからその観光協会というのを活性化させて、そこできちっとこの16億円産業が新たに生まれる可能性がある産業に関してはきちっとそこが核となってやっていくべきではないか。それこそ町民が核となってやっていくべきではないかと思いますが、いかがでしょうか。

**○町長（山本孝二君）**　お答えします。

その中の１つに観光協会はあると思います。私も理想はそれが一番いいと思います。やはり町民、町民の方でも力を持っておられる方もたくさんいらっしゃいますし、そこで組織を立ち上げて提案をしていただくと。それは地場産業の育成にもつながりますし、地元愛ということにもつながりますので、その点は同感であります。

○４番（福永　啓君）　随分長くなってしまいましたので、もう終わろうかなと思うんですが、幾つかちょっとやっぱり質問しておかなければおかないことがあるので、すみませんちょっと時間をください。

まず今言った観光の事業、これは都市再生整備事業を行った以上、やはり必ずやらなければならない事業だと思うんですね。これに関してまず観光交流センターが核になるとおっしゃいました。観光交流センターは、最初行政がやるとおっしゃいました。そしたらこの４月末にちょっとイメージだけをお聞かせください。観光交流センターには誰がいて、どのような、町の職員が最初いるわけですか。そこで受付とかもしくはそこでコーヒーとか出すのは町の職員なんですか。それと街なかギャラリー、そこには誰が受付とかいて、町がやっぱり最初は経営するとおっしゃってますので、誰がいてどのようになっているのか。恐竜博物館だけはスタッフがいるからわかるんですが、公園もほかのところも全くスタッフは今現在おりません。そのイメージをちょっとお聞かせください。

○町長（山本孝二君）　お答えします。

いろんなやり方がありますけれども、一番簡単なのは町でやると、問題はお金だけですよね。人を雇えばできるわけですので、それが一番簡単というかやりやすいかなと思います。ただそこにはやはり効率的にしなければいけませんので、そこで先ほどありましたように観光協会の皆さんとか、あるいはそのほかの皆さんとか、いかに連携してやれるのかと。そうやって最終的には民でと思っていますので、そのやり方についてはまだまだいろんな知恵というか、アイディアがあるかなと思いますので、ぜひイメージというか、行政主体に民に移行できるような環境を整えるにはどういう手法があるのかということで検討したいと思います。

○４番（福永　啓君）　開館までこの整備事業がすべて終わるまで、あと１年になっています。その段階で今私が質問した範囲ですとあまりにも検討中、もしくはこれはしていないというところが多すぎると思います。今、これはしなきゃいけないことが欠があるわけですよ。それまでにこれをしなきゃいけない、これはしなきゃいけないということをきちっとしていかないと、ここで使った何億円というお金、それをむだにとは言いませんけど、非常に効率が悪く使ってしまったことによって町民は非常に、それに対して反感を覚える人も増えてくると思います。これに関しましては、ぜひ今から具体的計画を一つ一つ実行していただいて、そしてその計画がわかり次第議会に滞りなくお伝え願いたいと思います。